

新聞新報

2005年(平成17年)1月12日 水曜日

阪神大震災以降に起きた国内の主な地震

発生年月日	地震名	地震規模 (マグニチュード)
1995. 1.17	兵庫県南部地震 (阪神大震災)	7.3
2000.10. 6	鳥取県西部地震	7.3
2001. 3.24	芸予地震	6.7
2003. 5.26	宮城県沖地震	7.1
2003. 7.26	宮城県北部地震	6.4
2003. 9.26	十勝沖地震	8.0
2004.10.23	新潟県中越地震	6.8

「そこに住んではいけな
いと、私たちは言ったのに。
あの津波を忘れてしまった
というのか」

減災 阪神大震災10年

2

阿部勝征・
東京大地震研
究所教授は、
インド洋津波
でインドネシ
アが大打撃を
受けたとの情
報に思わず力
が抜けた。
インドネシ
ア東部のフロ
レス島沖で
一九九二年十

二月に起きた地震。同島近
くの小島・バビ島は、高さ
約三層の津波に襲われ、海
辺の砂州に住む約三百人が
犠牲となった。
阿部教授を団長とする国

対策の空白

再建築を
放置し
た。

島民たちは、再び砂州に家
を建て始めたのだった。
「地震観測網の精密化」
「危険地域への防潮堤の建
設」などの提言に同国政府
は手をつけず、住民たちの

「大地震は太平洋側で起
こるものと考えていた。だ
から、最初は東京方面で、
起きたのだろうと……」
新潟県中越地震でJR上
越線の車内に一時間も閉じ
込められた同県小千谷市の
会社役員(51)は帰宅後、震
源が地元と知って驚いた。

「関西で大地震は起きな
が重視されていたのだ。
阪神大震災を機に、研究
者の意識と防災行政の方針
は劇的に変わった。政府の
地震調査研究推進本部は、
九七年から九八年の「主要
活断層」の調査に着手、う
ち七十三か所の発生確率が
成果として公表された。

届かぬ警告 ツケ重く

阿部勝征・
東京大地震研
究所教授は、
インド洋津波
でインドネシ
アが大打撃を
受けたとの情
報に思わず力
が抜けた。
インドネシ
ア東部のフロ
レス島沖で
一九九二年十

際協力事業団(現・国際協
力機構)の緊急援助隊は、
被災地の調査後、二十三項
目の提言をまとめて同国の
調整大臣に渡した。
だが、わずか一年後、漁
業で生計を立てるしかな

インド洋津波の被害拡大
は、そんな「対策の空白」
のツケでもあった。
「空白」は、日本の地震
研究・対策分野でもうめら
れないままになってきた。

そんな被災住民の反応
になっっていなかった。
に、大竹政和・地震予知連
絡会長ら地震研究者たちは
「九五年の阪神大震災から
何も変わっていないのか」
と衝撃を受けた。脳裏には、
苦い思いが再びよぎった。

「関西で大地震は起きな
が重視されていたのだ。
阪神大震災を機に、研究
者の意識と防災行政の方針
は劇的に変わった。政府の
地震調査研究推進本部は、
九七年から九八年の「主要
活断層」の調査に着手、う
ち七十三か所の発生確率が
成果として公表された。

いたはずだ
った。しか
し、研究者
の常識は、
揺れそうな場所と規模の研
究は進み始めはした。
大竹会長は「地震防災に
は対話が欠けていた」と振
り返る。「どこで、どんな
危険が生じる恐れがあるの
か世に伝え、消防や行政機
関と知恵を出し合っていかなければ」